

# 長門湯守

～新しい恩湯事業のご提案～

# ～私たちの想いと覚悟～

## 先祖から受け継がれた恩恵

「湯本の岩より湧き出る温泉」



地域・場所の文化における「継続性」は、生活者が営んで行くことに意味があり、文化は生活者が引き継いで行くべきであると考えます。

## 長門湯守 = 地元事業者 + 現生活者

次の世代に継続していくためにも、現生活者と地元事業者が、協働で事業を興し創出した利益を還元して、まちづくりに役立てる仕組みを作ることが「長門湯守」の責務であると考えます。

# ～事業コンセプト～

生活者（住民・従業員・事業者・移住者）  
が楽しめる生活文化の創出と循環経済の  
創出（ちょいバイト、ちょい飲み）

女性が楽しめる長門湯本の  
歴史に基づいた古代的温泉



川を介したコミュニケーションの  
あり方を問う温泉地パブリック空  
間として拓けた温泉地

川・温泉・広場・飲食棟をひとつな  
がりの空間として設計・運営、世界  
に通用する長門湯本のスモールエリ  
アの創造

# ～達成したい事業効果～

## 来街者の増加

環境のもつポテンシャルを  
最大限活かした、まちづくり

## 自立したまちづくり

まちは、生活者がつくっていくものとして  
問題意識をもった町との関わり

## 高齢者の働く場と 新規移住者・事業者

温泉・飲食・イベント事業を展開

## 移住者・事業者の増加

空き家のリノベーション

## ～ 6つの要素の表現～

### 恩湯

森 - 広場 - 温泉 - 川をひとつながりの空間として捉える  
住吉神社のふもとから湧出する神聖な温泉  
湯船へとつながる長い廊下を参道に見立てる  
自然湧出・岩盤をそのまま見せる 源泉掛け流し  
音信川の音と森の香りをを感じる

### そぞろ歩き

竹林の階段から広場 - 恩湯 - 川をひとつながりの空間として演出。川床・置き座を含めた開かれた水辺の演出と充実したイベント開催でそぞろ歩きを促す。また、新規事業者を誘致して将来的にそぞろ歩き・食べ歩きのポイントを増やしていく。

### 食べ歩き

飲食物販事業のハイクオリティなテイクアウトメニューを提供するとともに、地域商店の食べ歩きメニューの開発に協力する。イベント事業を通じて、イベント出店者や地域店舗の増加を図る。

### 文化体験

周囲の自然や伝統を楽しみながら学べる場所の提供を行い地域の文化継承者達と連携し、茶道、花道、萩焼体験などのワークショップやイベントを開催するまちの魅力を掘り下げる。

### 休む・佇む空間

音信川という固有の自然の圧倒的なパブリック空間を最大限活かし、縦横無尽に活用されている姿こそがどこにもないシンボリックな風景になる。地元生活者が「楽しんでい  
る風景」、来街者の「のびのびしている風景」が一番のシンボル風景。

### 絵になる場所

恩湯および飲食物販施設の運営を通じて、広場、置き座、川床、橋などをパブリックに開かれた魅力的な空間としてナビゲートする。川床、置き座、橋を中心に、フォトジェニックな活用をイベントを通じて演出。SNS等を活用した情報発信に努める。

## ・ 段階的で確実な事業推進と将来展開

施設完成までのマーケティング活動	実証実験 商品開発 既存店舗
施設運営の確実な黒字化	パブリック空間利活用 河川・道路管理等環境向上
将来のエリアマネジメントや 暫定利用地事業への参画	駐車場運営 入湯税の改定 シーズナリティの平準化 空き物件活用 追加投資 事業者誘致

## ・ 事業範囲ごとの考え方

### 恩湯事業

神授の湯：神性を肌で感じる固有の入浴体験

古代より岩の割れ目から湧き出ている温泉こそ唯一無二の自然資本

現代の居心地の良さを追求した大らかな浴場として活用



### 礼湯温泉源の活用

礼湯は本来、毛利藩主、大寧寺の僧侶、身分の高い方々が入浴されていた由緒ある場所。

神聖な温泉という認識のもとに住吉神社利用促進に寄与していく仕掛け作りを行う。





飲食物販事業

焼き鳥の街、長門市で生産される鶏肉を主軸に、地域の食材を使用  
ランチメニューはお重で提供し食べ歩きのためのテイクアウトも充実  
既存旅館の宿泊プランへの食事提供や割引等の連携



広場活用事業

イベント用の広場インフラ整備や備品倉庫等の設備も検討  
まちの魅力を掘り下げる文化体験シーズナリティの平準化に寄与  
シニア人材の活用。既存事業や行事全体のクオリティコントロール



川床・置き座事業

食事や休憩を楽しむだけでなく新しいサービスも検討  
地元の飲食店や旅館と連携し、ドリンクや食事のデリバリーなどの連携  
インフラ面では、電源と高速WiFi環境も完備するため行政と連携



## ～ 恩湯事業成功へのプロセス～

確実に事業を成功させる

- ・ 恩湯プランの地元への提案や意見交換
- ・ 景観ガイドラインの枠組みでのデザインレビューへの提案や周辺ランドスケープや夜間景観との調整
- ・ 司令塔と連携し、デザイン会議における検討や作業項目を提案し事業化への課題解決や採算性を向上させる
- ・ 地元や関係各所の協力提案などの具体的な取り組みを先導し、地域内外の知恵を結集

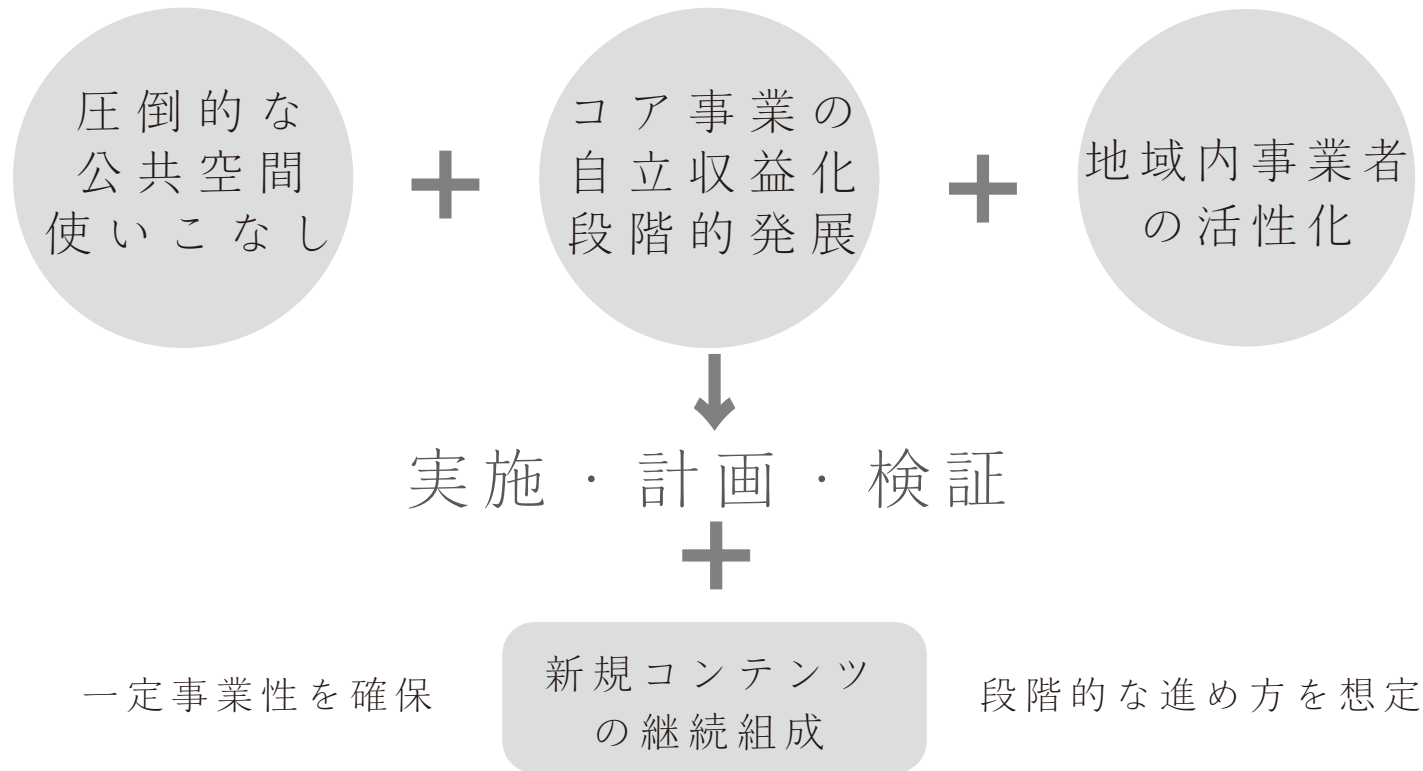
## ～ 公民連携・地域協力による将来設計～

- ・ 地元生活者の参画促進や小中高校の教育連携
- ・ 既存旅館や事業者との商品開発や共同営業
- ・ コラボしたい民間事業者へのビジネス提案や誘致
- ・ 事業者オーデイションやリノベーションチームとの連携
- ・ センザキッチンや優良な地元生産者との商流づくり
- ・ デザイン会議メンバーの協力を得ながら推進

公民連携元年



# トップ10を目指す考え方 ～ 4つの要素～



## ファン獲得とリピーター造成

オープニングに向けて、湯本の旅館を中心に長門に来られた人、コアなりピーターの方々に事前に呼びかけ、クラウドファンディング等の手法も活用し、特別感のあるキャンペーンを打つ。そこにおもてなし側の地元の有志プログラムも参画し、オペレーションのトレーニングもかねてファンの獲得をねらう。

## 地域連携と循環経済

施設運営には積極的に地元人材を採用し、エリアの物語やまちの紹介を積極的に伝える役割を担い、この場所が発地となり大寧寺や三ノ瀬、長門全体への回遊を促していく。クオリティコントロールをきちんと行い、景観やデザイン、事業の質や事業主体の人物を見極めつつ、外部事業者を誘致していくことが重要となる。

## オープンまでのスケジュール

施設設計	平成 30 年 4 月 ～平成 31 年 3 月
工事	平成 31 年 4 月～9 月
竣工	平成 31 年 10 月
開業	平成 31 年 11 月

# 私たちについて



伊藤就一

玉仙閣 専務取締役

老舗旅館の後継者として、湯本に生まれ育ったものとして、恩湯事業とまちの活性化に強い想いを持つ。長年の旅館業務に加え、旅館組合青年部の中心人物として、まちの活性化に力を注いでいる。



大谷和弘

大谷山荘 専務取締役

伊藤氏とともに長門湯本温泉の歴史と文化を深く愛する老舗旅館の後継者。別邸音信の立ち上げ、サービスの向上など、自らが培った経験を生かして、恩湯の継続と発展に強い想いを持つ。



青村雅子

Homey 代表取締役

やきとりの名店ちくぜんを始め、市内外で複数の事業を展開する長門市を代表する女性起業家。湯本湯侍のルーツを持ち、長門湯本温泉の活性化を強く願う。



ファンタス

長門市在住のデザイナー白石慎一が代表を務めるweb, グラフィックの株式会社。cafe&pottery 音の立ち上げを通じ、伊藤氏、大谷氏の地域への熱い想いに打たれ参加を決意。

# 施設的设计

设计事务所 岡昇平 + 田村设计室



香川県高松市の日帰り温泉施設「仏生山温泉」をはじめ、瀬戸内国際芸術祭での屋外会場・展示など、総括的なランドスケープを考慮した魅力的な建築を設計。仏生山温泉の代表としても運営を担う岡氏は、「まちぐるみ旅館」の概念で、エリア全体を魅力あるコンテンツとして育てている。

長門湯守は、自然資本である温泉、音信川の環境を尊重し、生活者の暮らしの喜びに即した固有のまちづくりを目指します。



お問い合わせ・取材のご連絡 [nagato.yumori@gmail.com](mailto:nagato.yumori@gmail.com)